親孝行の模範〝民五郎さん〟

岡田文生（栗ヶ畑）

私は明治三十八年日露戦争に勝った年に生まれたのであります。明治二十七、八年日清戦争に勝っており、世界中の国の人が皆あの小さい日本が世界の二大強国に勝ったので目を覚まして驚いているときでありました。昭和六十二年は長谷小学校創立百周年で、私の歩いて来た事、又、見聞きした事を次のとおり書いて記念の一頁にしたいと思います。

長谷小学校は現在八十二名いるが近く百名くらいになるとの事で、頼もしい事であります。戦前には校庭の東には忠魂碑があり、西の校舎前には二宮金次郎の像があって国には忠、親には孝と忠孝一致の教育が基本的でありました。又、敬神崇祖の念も叩き込まれたものです。この為、村社であった阿蘇神社の祭礼の日には全校生徒が参拝したものです。親孝行については修身に渡辺登（後の華山）が親孝行者として出ていました。この長谷村でも柴北の田嶋民五郎さんは大変な親孝行者で、身体の不自由な親を珍らしい事があれば背負うて見物に連れて行ったり、常日頃大事に世話をしていましたので、時の大分県知事から親孝行の模範として表彰されました。そして、昭和二十五年長谷小学校の校庭の東に町民の鑑として記念碑が立てられ、その遺徳を顕彰されています。

戦争中は専ら戦争遂行の為の教育と共に、上級生は出征兵士の家庭の農作業の加勢もしていました。

祝祭日には必ず国旗を掲げていました。又、学校では式があり、奉安殿から御真影が移され校長先生が拝し、来賓、先生、次に生徒が三歩出て拝し、三歩下がる。校長先生が白い手袋をされて教育勅語を奉読される。この間一同頭を下げて拝聴し、次に君が代を斉唱して、心身共に緊張の極みでありました。

年中行事では新学期の始め全校生徒の山登りで、日の丸弁当で水の元へ行き、山坂を走り登るのが楽しみでありました。帰りは各部落毎に帰るので兵隊ごっこをしながら帰ったものです。

秋の大運動会は家族の慰安日でもあって、栗や柿等の果物を持って朝早くから出かけ、教室や校庭の周囲に陣取って一杯となり、自分の子供や隣近所の子供へあらん限りの応援をしておりました。服装は個々まちまちで今考えると面白いくらいでした。又、井田郷運動会では長谷・犬飼・井田・柴原の四校で選手を出し、我が校が優勝をと一生懸命応援した事も頼もしい思い出であります。

生徒の登下校の服装は全部和服の筒袖で藁で作った草履で雨降りの時は下駄であった。良い家庭の人はカバンであったが、風呂敷に包んで横かるいにして行ったものです。

弁当は麦七分に米三分、又は粟六分に米四分とかで、出来上がりは米はほとんど見当たらないような飯に、おかずは梅干か漬けものでありました。今では学校で給食しているがお母さんの手造り弁当がよいという話もあります。

下校の途中、柿等の果物を荒らして申し出られて早速先生から叱られた事も有りました。今後長谷小学校の御発展をお祈り申し上げます。